

Theme Symposium | 競技スポーツ研究部会 | 【課題A】トップアスリート養成をいかに効果的に行うか

Significance and problems of universities as bases for the development of top athletes III: Focusing on the connection of top athletes from high school to university

Chair: Hirokazu Arai, Yosuke Tahara

Wed. Aug 30, 2023 1:50 PM - 3:50 PM RYB1 (良心館地下1階R Y B 1番教室)

競技スポーツ研究部会の課題Aでは、2021年度に「トップアスリート養成の拠点としての大学の意義と問題点」、2022年度には「トップアスリート養成の拠点としての大学の意義と問題点II—トップアスリートの大学からプロ・実業団への接続に着目して—」というシンポジウムを開催した。2023年度はこれまでの議論を発展させ、「トップアスリート養成の拠点としての大学の意義と問題点III—トップアスリートの高等学校から大学への接続に着目して—」というシンポジウムを開催する。

私立高校授業料の実質無償化制度が開始され、定員割れの私立大学が5割を超えるとする時代に、大学はどのように高校生アスリートを受け入れ、育成すべきか。トップダウンで進められようとしている「運動部活動の地域移行」に振り回されている高校生や、アスリートとして「コロナ・ネイティブ」の高校生にどう寄り添うべきか。指導者としての視点だけでなく、多様なアントラージュからの視点も大切に、高校生アスリートと大学の接続について、聖域なき議論を徹底的に交わしたい。

[競技スポーツ-SA-2] How to get involved with sports during high school and college

Perspectives from faculty members in charge of athletic clubs

*Atsushi Kiuchi¹ (1. University of Tsukuba)

＜演者略歴＞

筑波大学体育専門学群卒業、同大学院修士課程体育研究科コーチ学専攻修了。大阪工業大学助手、講師、准教授を経て、2014年より現職。博士（教育学、九州大学）。筑波大学体育スポーツ局大学体育部門長、硬式野球部長。首都大学野球連盟理事。全国大学体育連合常務理事、研究部長。日本スポーツ体育健康科学学術連合監事。

競技とそれ以外の生活の調和を表す「スポーツ・ライフ・バランス」（荒井ほか、2018）。これを実現する学生アスリートの育成は、大学スポーツ界にとどまらず高等教育全体の課題、さらには社会的課題とさえ言える。近年発覚した東京五輪汚職事件などは、スポーツとの関わり方を見直すべき対象が、アスリートやその指導者限定のはずがないことを示している。私たちスポーツ関係者は、スポーツが人や組織、地域や国を育てる力を持っていると信じているものの、それを裏づけたり効力を高める方略については、十分な知見集積に至っていない。

シンポジウムでは、学生アスリートのスポーツ・ライフ・バランスの実現へ向けた展望と現状について論じる。具体的には、現場で指導する監督・コーチではなく部長という立場で約30年、大学スポーツに関わってきた私自身の体験と、これまでの限られた学術的な知見の整理を試みる。スポーツといかに関わることが人としての成長につながるのか、幸せにつながるのか、社会の発展につながるのか。参加者のみなさんとともに考えたい。